

猫とうさぎ

観察日記



凸月凹日(晴れ)

散歩の途中で、
かわいい猫とうさぎを
拾った。

家で飼うこと
にして
連れ帰った
のだが、

えさを
取りに
ちよつと部屋を
離れて戻った
ところ・・・



ニヤ...ニヤ~...



.....!!

なんと、かわいい
人間の女の子に
変身していたのだ。

うげっ!
やばっ!
サイアク!

あ
あわわわわ

これは、なにかの
ごほうびだろうか？



なんにせよ、拾った以上は責任を持って可愛がらねばなるまい。

とりあえず「自家製」の「栄養満点ミルク」を飲ませることにした。

まずは「猫」から口に含ませてみた。

びっくりしたのか、嫌がって飲もうとしなかったが……

強引に口にねじ込み、たっぷり飲ませてあげることが出来た。



次に「うさぎ」にも

「ミルク」を飲ませようと

したが・・・

やはり嫌がったので

頭をしっかりと抑え、

口に押し込んで

無理矢理に飲ませる

ことにした。

ちゅっ
ちゅぷっ
びゅんびゅん
びゅんびゅん

ぐくぐく
ぐくぐく

んっんっんっ

んっんっんっ

出された「ミルク」を
ちゃんと全部
飲み込んでくれた。

口をモゴモゴさせて
泣きながらではあったが、

さて、もっとふれあって
仲良くなりたい、と
いうことで・・・
全身を撫でまわし
舐めまわしたあと、
最高のスキンシップ
として、

「交尾」を試してみた。

小さいせいもあって
かなり痛いらしく、

泣きじゃくって
しまったが・・・

ここは飼い主の責任として、
ちゃんと気持ちよくなるまで
やり続けることにした。

みちっ
ぶちっ
ちゅっぶ
ちゅっぶ
ちゅっぶ
ちゅっぶ



体位を変え後ろから挿入すると

・・・野生の本能だろうか、

若干落ち着いて受け入れ
ているような気がした。

鳴き声も甘くせつない
快感が混じった感じに
なってきた・・・

可愛くてたまらず
膣内を激しく突いて
こねまわして、

鳴き声をあげさせるのに
熱中してしまった。



やがて「猫」は体を
ビクンツとさせると、
何とも言えない
可愛い鳴き声をあげた。

ちやんと絶頂を
むかえられたようだ。

それを確認したあと
ペ〇スを膣内に深く
突き入れ、子宮を
満たすように射精した。

ふあっ……
ふあぁあぁ……

はっ……

はひっ

ひやはっ

はっ

はっ……

びゅっ
びゅっ
びゅっ
びゅっ

初めて感じる絶頂と
子宮に広がる精液の
感触があまりに
衝撃的だったのか……

「猫」はしばらく
放心状態になって
しまった。



続いて「猫」との交尾を
絶句しながら眺めていた
「うさぎ」を抱き寄せ、

全身を愛撫したのち

「交尾」を始めた。

いやあつあつ!!

あつあつ!!

あつあつ!!

いっ!!

いたつ

痛いよあつ

やあだあつ!!

やめてえつ!!

ううやああああつ!!

やはり悲鳴をあげて

泣き出したが・・・

構わずにペコスで膣内を

激しくこすり続けた。

ちゅばつ
ちゅばつ
ちゅばつ
ちゅばつ
ちゅばつ



やはりこちらも、
後ろから突くと
おとなしくなって
やりやすい。

顔が見えない不安で
萎縮するせいも
あるのだろうか？

とにかく突くたびに、
か細く震える可愛い
鳴き声にメスの
本能が表れ始め、

ひゃうっ

はっ

はっん

あんっ

あんっ

っあっ

あっ

快感を感じ始めていくのが

分かって楽しい。

あっ
あっ

ペ〇ス突き入れる
腰の動きも、
思わず激しく
なってしまう。

ぺちゅっ

ぱちゅっ

ぺちゅっ

ぷちゅっ



「うさぎ」は「猫」よりも早く
絶頂に達してしまい、
後は放心状態で脱力して、
されるがままだったが・・・
膣はペ〇スで突き上げる
たびに反応して「きゅっ」と
締めてくる。



まるで、一生懸命
搾り出そうと必死で
がんばっているようで
うれしくなる。
それをしばらく楽しんだあと、
膣内にたっぷりと射精して
一休みすることにした。

しかし、ちよつと目を離した
隙に・・・

「猫」と「うさぎ」は
逃げ出してしまった。

バカ
バカ
バカ
?



必要以上に
かまひ過ぎたのだろうか？



まあ逃げてしまったものは
しょうがない。
残念だが、あきらめよう。

凸月☆日(晴れ)

・・・と思ったら、次の日あっさり
戻ってきた。

しよくがないじゃん・・・
だって・・・

どうやら野良ではなく、ねえ・・・?
ちゃんと家があつて
放し飼いにされているらしい。

う・・・
うん・・・

家に帰ってはみたものの、
交尾の感触が忘れられず。

戸惑いながらも
戻ってきてしまった
ようである。



さっそく、猫がミルクを求めて
しゃぶりついてきた。

まだ匂いや味に嫌悪感を
抱きつつも、
なぜか求めずにいられない
らしい。

つたない口の動かし方が
いじらしく・・・
ちゅうちゅうと必死で、
痛いくらいに吸い続ける。

ごほうびに、昨日よりも
濃いのをいっぱい
飲ませてあげた。



猫がミルクを飲み干すと、
間髪入れずにうさぎが
しゃぶりついてきた。

小さな口いっぱいになんっ
ほおばりながら、

これまた必死に
吸ってくる・・・
ときおりあせって
軽く噛んでしまう
のもまた可愛い。

うさぎにも
ごほうびの
ミルクを、
十分に飲ませて
あげることが
できた。

んんっ

んっ

んっ

んふっ・・・

んもっ・・・

ちゅぽっ

うじゅっ

じゅるっ

んくっ

んぐっ



自ら挿入して動くことも
覚えさせることができた。

まだ震えながら

ペ〇ス半分くらいいの
ストロークで動かすのが
やっとだが・・・

んしよ・・・
なかなか賢い
いい子だ。



ちゅっ
ちゅっ
くちゅっ
ちゅぶっ
ちゅぶっ
ちゅぶっ

一生懸命腰を

動かしつつ

こちらの顔を

じっと見つめ、

気持ちよくなって

貰えてるかを

気にしているようだ。

ひとしきり下から眺めるのを
楽しんだあと、
再び寝かせて突きまくると
。 。 。

苦しいような
きもちいいような、
たまらなくかわいい
声をだしながらこちらを
見つめてくる。

ほどなくイッたようなので、
膣内でたっぷり射精して
一息ついてから
ペ〇スを引き抜いた。



猫との交尾をもじもじしながら見ていたうさぎは、

すでにパンツを下ろして順番を待っていた。

いつ・・・

あああああああ

やっ
あはっ
はっ
はっ

挿入すると、痛み
声をあげて身を
よじらせるが・・・

気持ちいいのが
来ると分かって
いるので、

泣きながらも
がまんしてがんばって
いるのが、いじらしくて
たまらない。

みちゅっ
めちゅ
ぷちゅ



やがてうさぎも猫の
真似をして、上にまたがって
自分で挿入するのを覚えた。

猫と同様に、短いストロークで
恐る恐る出し入れするのだが、

時おり勢いあまって
根元まで押し込んでしまい、

んあつ

あつ

あつ

あつ

あ！

「ひぎやあつ！」と、

思わず笑ってしまうような

情けない声を出す。

そして一瞬止まるのだが、

すぐにまた腰を動かし始める。

ひたむきに快感を求め

姿が、可愛くしょうがない。



寝かせて膣内をペ○スで
ぐりぐりかきまわして
いると・・・

体を「ビクッ」とさせて
口をパクパクしだした。

はっ

かはっ

はっ

はっ

ひはっ

はっ

どうやら、声も出せないくらい
気持ちよくイッてしまったようだ。

あとはいっそう深く押し込んで射精し、
やさしく抱っこして頭を撫でてやった。

めちゅっ

めちゅっ

めちゅっ

くちゅっ

めちゅっ

くちゅっ



その後も

何度も何度も

交尾を繰り返し。。。

どんどん愛しさも

気持ちよさも増して

いく感じだ。

はあ

はあ

んにゃ……

はあ

へひゃ

は……

猫もうさぎも

「将来、お兄さん

の赤ちゃん生みたい。」

とまで言い出した。

通い猫、通いうさぎではあるが、

これからもずっと可愛がってやろうと思う。

